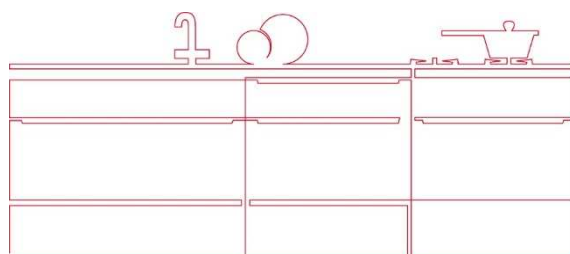


Kitchen Annual Report
キッチン白書® 2023
キッチンのゴミに関する生活者調査



クリナップ®株式会社
おいしい暮らし研究所®

2023年3月発行

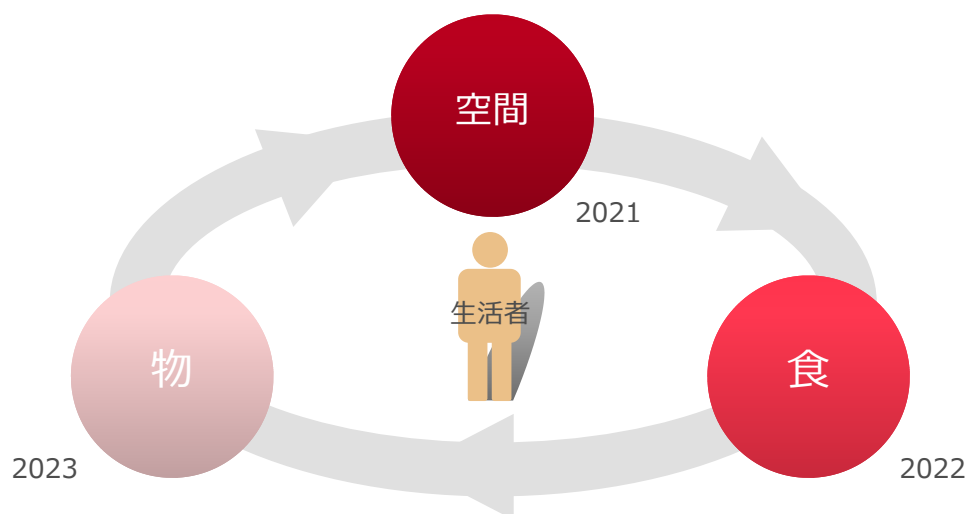
I. はじめに	3
II. 調査概要	4
III. 調査結果	
1. 環境への関心	5
2. キッチンで出るゴミの種類と保管場所	6
3. キッチンにあるゴミ箱の実態	7
4. キッチンのゴミ箱の大きさに影響を与える要素は何か？	
住まい側からの影響	8
住む人側からの影響	10
5. キッチンで出るゴミに関する悩み	13
IV. まとめ	14

クリナップは日本で初めてシステムキッチンを製造、販売したキッチンメーカーとして、キッチンにまつわる生活者の実態調査を継続的に実施しています。

地球温暖化や海洋汚染など環境問題への意識の高まりから、SDGSの取り組みに関心が寄せられています。調理時に出る食品の包装や食品廃棄などについても環境への影響が指摘され、国連のSDGsの17の目標「12 つくる責任、つかう責任」で取り組みの必要性が指摘されています。

2023年は、キッチンにあるゴミ箱に着目し、住まいや住む人との関係を分析した結果を“キッチン白書”として公開します。

クリナップは「家族の笑顔を創ります」という企業理念の下で、もっと食を、家族を、暮らしを、深く知り、考えていくために「食、物、空間」をテーマに様々な切り口で調査しています。調査の結果から見てきた生活者の“いま”をキッチン白書として2017年から公開しています。





Ⅱ．調査概要

実施期間 : ①スクリーニング調査 : 2022年9月

②本調査 : 2022年10~11月

調査対象 : ①20歳以上の既婚女性（離死別を除く）

②現在の住宅に住み始めて3年以上経過 or キッチンをリフォームして3年以上経過

回収数 : ①20,000名

② 600名

調査方法 : インターネットによるアンケート調査

株式会社ヴァリューズの協力のもと実施

Ⅲ. 調査結果

1. 環境への関心

まず最初に、環境への意識を確認してみます。

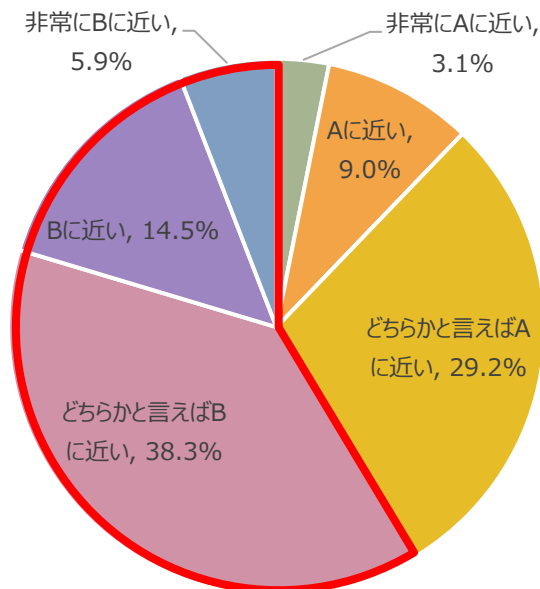
- 意識を尋ねた質問では「環境に配慮して繰り返し使える製品を選ぶ」と回答した人の方が多数派で、衛生面が気になるキッチンにおいても、環境への配慮を意識している方が多いようです。

Q.【A】と【B】の意見のうち、あなたの考えに近いのはどちらですか？

(n 17,921)

【A】衛生面を考えて使い捨ての製品をよく使う

【B】環境を考えて繰り返し使える製品を選ぶようにしている



Ⅲ. 調査結果

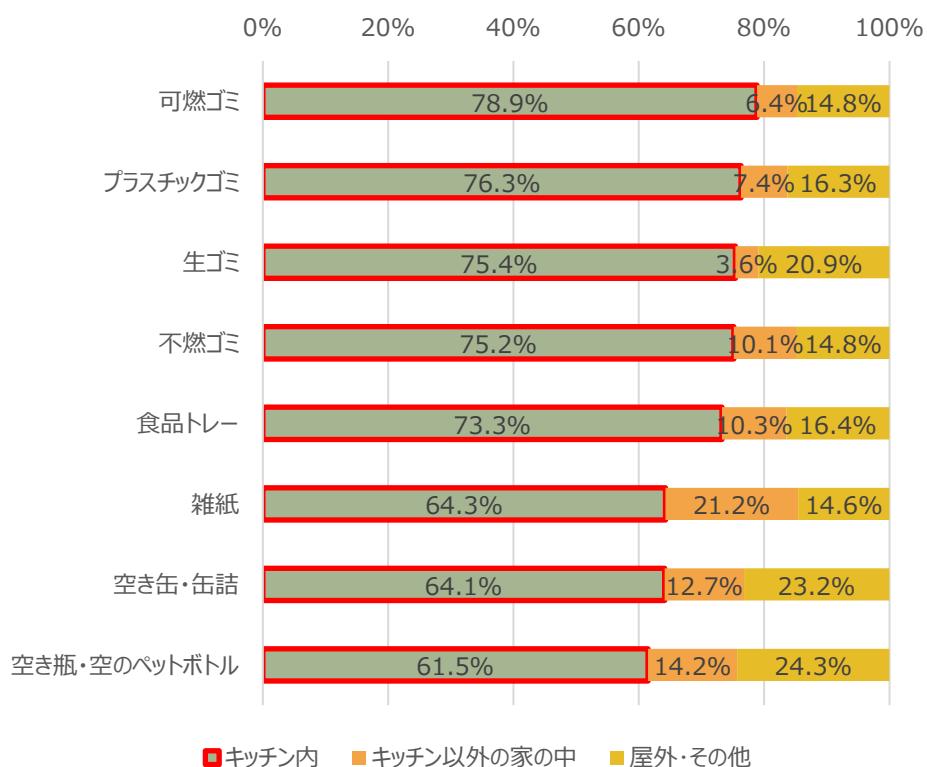
2. キッチンで出るゴミの種類と保管場所



それでは、キッチンで出るゴミはどこに置かれているのでしょうか。

- キッチンには様々な種類のゴミがあり、種類を問わず収集日までキッチン内で保管している世帯が多いようです。

Q.キッチンで料理や調理、食事、掃除などに伴って出るゴミ
を収集日までどちらに保管していますか
(n572)



Ⅲ. 調査結果

3. キッチンにあるゴミ箱の実態



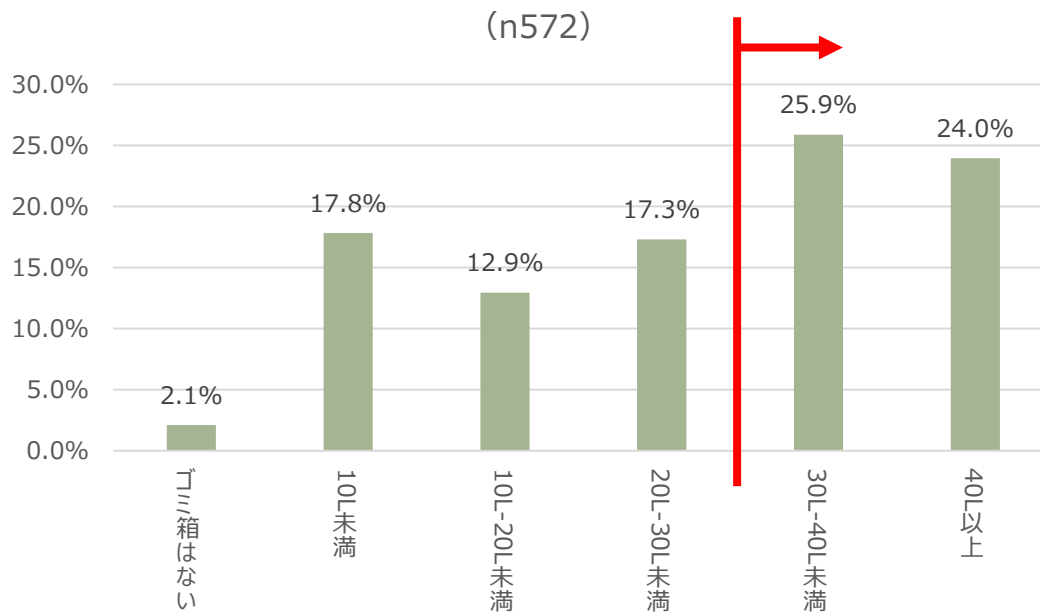
では、キッチンのゴミ箱は全部でどのくらいの大きさなのでしょう。

➤ キッチンにあるゴミ箱すべての合計容量は、**30L～40L未満がもっとも多く、次いで40L以上**とかなり大きめの世帯が多いようです。

分別用のゴミ箱がいくつもキッチンに置かれることで、合計容量が大きくなっているのかもしれません。

Q.ご自宅のキッチンにあるゴミ箱すべての容量合計はどのくらいですか

(n572)



Ⅲ. 調査結果

4. キッチンのゴミ箱の大きさに影響を与える要素は何か？

住まい側からの影響 キッチンの形態と間取り

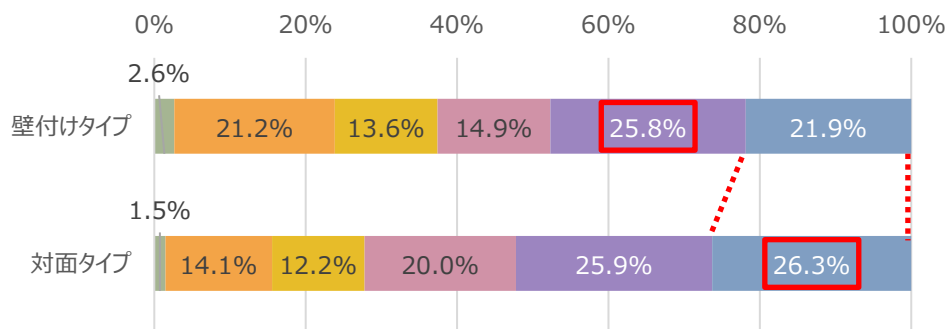
ゴミ箱の大きさは何と関係があるのか、住まい側の要素から分析してみました。

- キッチンの形態で比較をすると、他の空間に向かって開けた**対面タイプ**の方が**壁付けタイプ**よりも**ゴミの容量が大きい**世帯が多いようです。
- またキッチンの間取りで比較をしてみると、キッチンが独立した部屋になっている場合やDKよりも、**LDK**で**広い空間にキッチンがある方がゴミ箱も大きくなる傾向**があります。

他の空間のゴミも捨てられるようにキッチンのゴミ箱が**大容量化**している可能性もあります。

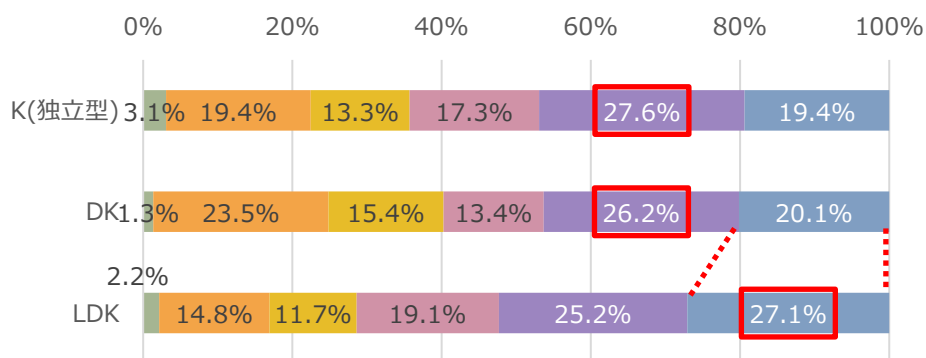
キッチン形態×ゴミ箱の合計容量

(n572)



キッチン間取り×ゴミ箱の合計容量

(n572)



- ゴミ箱はない
- 10L未満 (一番小さいゴミ袋1つ分未満)
- 10L~20L未満 (小さいゴミの袋1つ分程度)
- 20L~30L未満 (中サイズのゴミ袋1つ分程度)
- 30L~40L未満 (大サイズのゴミ袋1つ分程度)
- 40L以上 (大サイズのゴミ袋2つ分以上)

Ⅲ. 調査結果

4. キッチンゴミ箱の大きさに影響を与える要素は何か？

住まい側からの影響 LDKのキッチンに保管されているゴミ

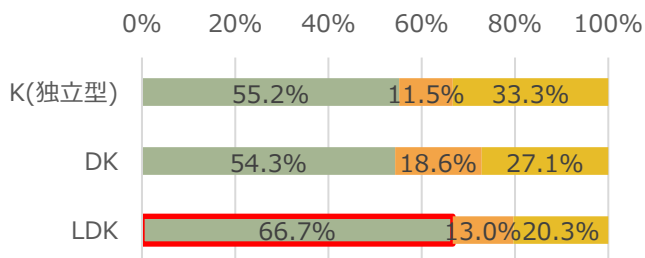
LDKのキッチンで保管されることが他の間取りよりも多いゴミの種類を確認してみました。

➤ 瓶・ペットボトル、食品トレー、缶、雑紙などリサイクルゴミは、他の間取りよりキッチンで保管している世帯が多いようです。

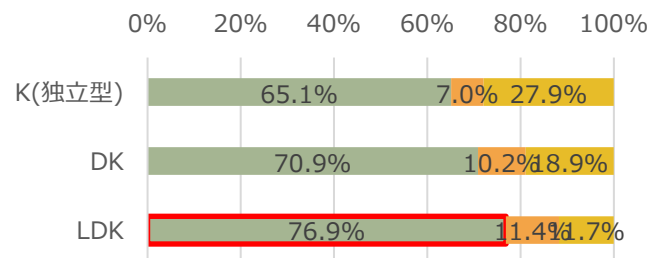
LDKのアクセスのしやすさや滞在時間の長さなどから、キッチンでリサイクルゴミを集約して収集日まで保管する、というスタイルになっているのかもしれません。

Q.キッチンで料理や調理、食事、掃除などに伴って出るゴミを収集日までどちらに保管していますか

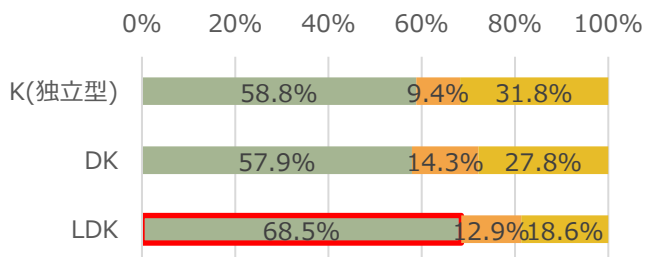
キッチン間取り×瓶・ペットボトル



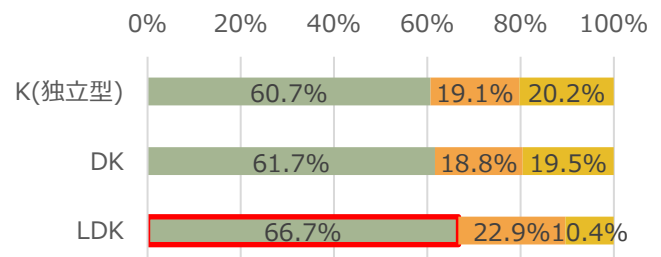
キッチン間取り×食品トレー



キッチン間取り×缶



キッチン間取り×雑紙



■ キッチン内 ■ キッチン以外の家の中 ■ 屋外・その他

Ⅲ. 調査結果



4. キッチンのごみ箱の大きさに影響を与える要素は何か？

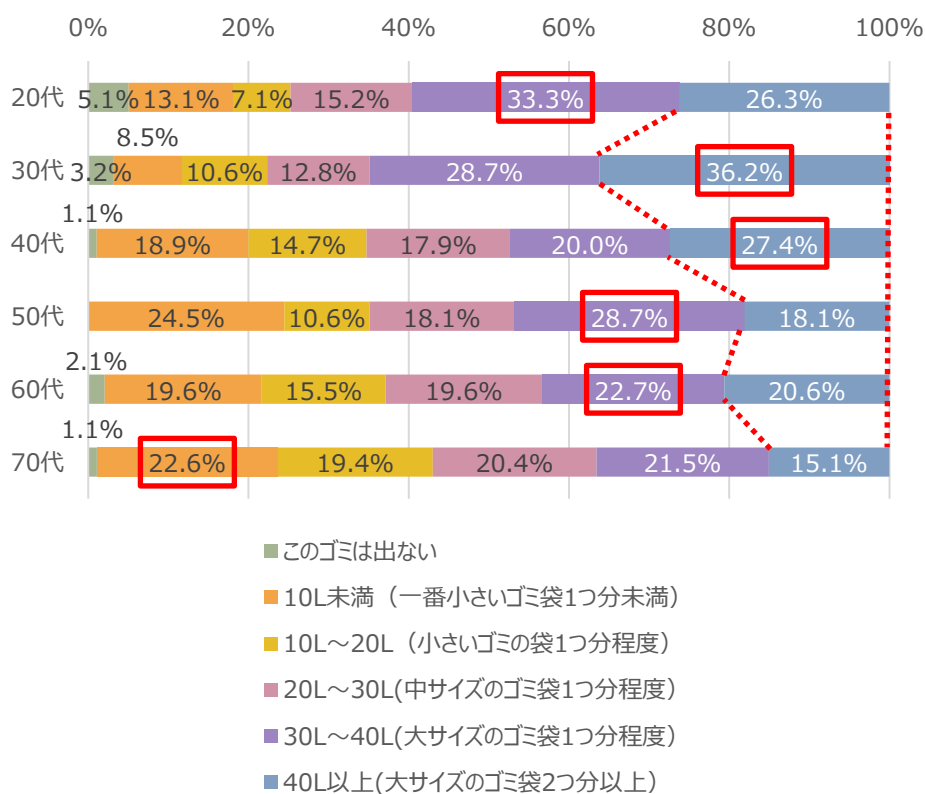
住む人側からの影響① 年代

次に住む人側の要素からも、何が影響を与えているか分析していきます。

➤ 年代別で比較をすると、**30代がもっともごみ箱の容量が大きく、年代が上がると共に容量は少なくなる**ようです。

年代×キッチンにあるごみ箱の合計容量

(n572)



Ⅲ. 調査結果



4. キッチンのごみ箱の大きさに影響を与える要素は何か？

住む人側からの影響① 30代の世帯で特徴があるゴミ

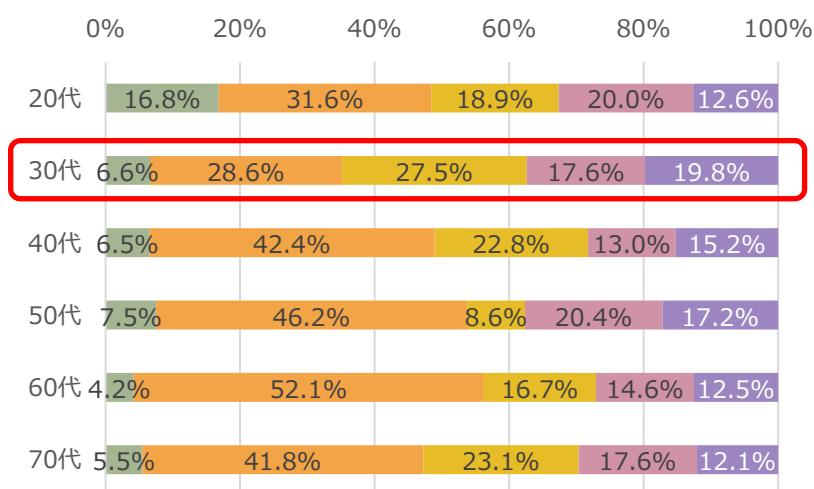
年代別で1週間に出るゴミの種類ごとの容量を比較してみました。

➤ 30代に特徴が見られたのは、プラスチックゴミと不燃ゴミ（リサイクルできない食品容器など）でした。

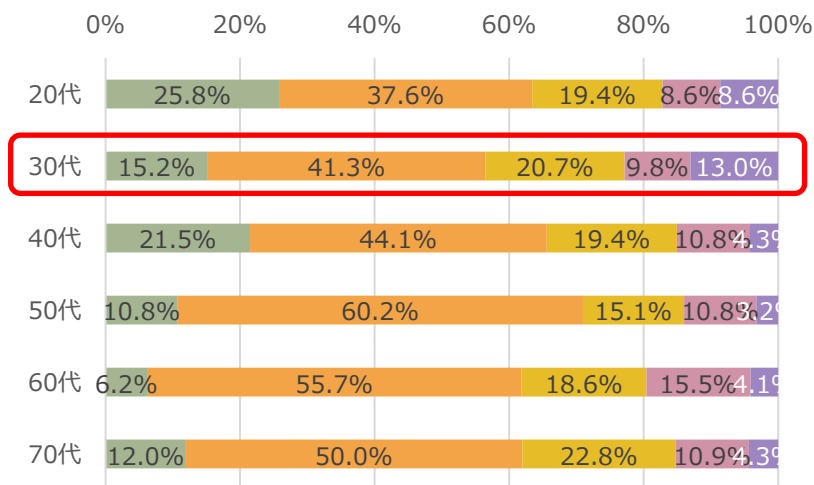
手がかかる小さい子供がいる世帯も多い30代は、手間を省くためにどうしてもゴミ箱の容量が大きくなってしまっているかもしれません。

Q.キッチンで料理や食事に伴って1週間に出るゴミの量はどのくらいですか

年代×プラスチックゴミ



年代×不燃ゴミ



- このゴミは出ない
- 10L未満 (一番小さいゴミ袋1つ分未満)
- 10L～20L (小さいゴミの袋1つ分程度)
- 20L～30L (中サイズのゴミ袋1つ分程度)
- 30L以上 (大サイズのゴミ袋1つ分以上)

Ⅲ. 調査結果



4. キッチンのごみ箱の大きさに影響を与える要素は何か？

住む人側からの影響② 使い捨てに関する意識

冒頭で紹介した意識についても、ごみ箱の容量と関係が見られました。

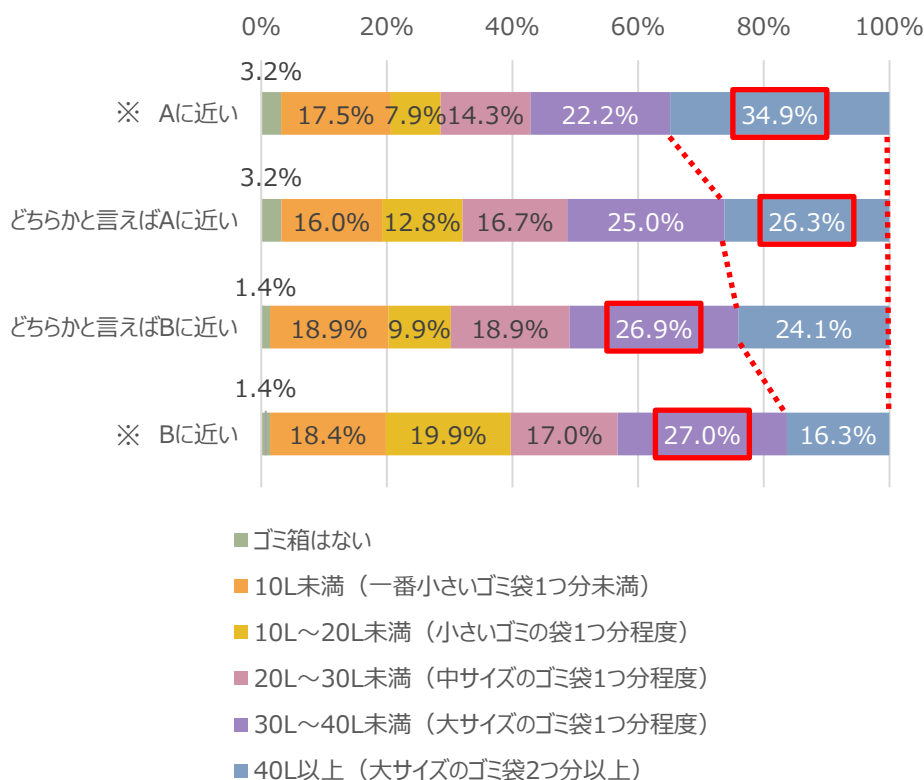
➤ 使い捨てに関する意識で比較してみると、**使い捨ての製品をよく使う世帯の方が、ごみ箱の容量は大きく**なるようです。

全体的には環境を意識して繰り返し使う製品を選ぶ人の方が多い傾向にありますが、衛生意識の高まりによっては、今後も影響があるかもしれません。

使い捨てに関する意識×ごみ箱の合計容量

【A】衛生面を考えて使い捨ての製品をよく使う

【B】環境を考えて繰り返し使える製品を選ぶようにしている



※「非常に近い」と「近い」を合計して集計

Ⅲ. 調査結果



5. キッチンで出るゴミに関する悩み

➤ キッチンで出るゴミに関して困っていることを自由に記述してもらった設問では、生ゴミに関するコメントが「臭い」198件、「コバエなどの虫」52件と最も多く見られましたが、ペットボトルやプラスチックゴミなどゴミの量についての悩みは65件、それらの保管場所についても58件に上りました。

Q. あなたが料理や調理に伴って出るゴミに関して、困っていることや悩んでいることはどのようなことですか
(量や保管場所に関する回答から抜粋)

・**キッチン全体の面積に対して、ごみを収納しておくために占める面積が大いこと。**たとえば、システムキッチンの引き出しの相当な部分は、分別用のごみ置き場になっている。(60代・フルタイム・一戸建て)

・**缶瓶ペットボトルは収集頻度が低いし嵩張るので邪魔になる。**洗った後、乾かすのに時間がかかるし場所を取る。(40代・専業主婦・集合住宅)

・一日3食手作りするので食品トレーなどのゴミが直ぐに溜まる。ある程度たまらないと捨てに行かないので、置き場所にとっても悩んでいる。それ以外にも、空き缶、ペットボトル、ふた、不燃ゴミなど、**ゴミの種類も多く、全てをまとめて置く場所がない。ゴミを減らしたいから手作りするのに、かえってゴミを増やしている気がする。**とはいえ、お弁当類はもっとゴミにはなるが。(50代・契約/派遣社員・集合住宅)

・**プラスチックトレーや食品トレーが袋の中で嵩張ること。**なかなかコンパクトに収まらない。(30代・専業主婦・集合住宅)

・**フードデリバリーの頻度が高い時期は、ゴミが回収までに溢れてしまう。**(20代・パートアルバイト・集合住宅)

・特に分別ごみについて、台所に複数のゴミ箱を置いて分別するスペースがないので、**収納の扉に袋をかけたり、ゴミの日まで出窓に置いたりして見て目が悪い。**(60代・フルタイム・集合住宅)

・かさばるし汚いので、収納できる**ゴミ箱を置きたいが、その為にスペースを割きたくない。**(40代・フルタイム・一戸建て)

【ポイント】

- 衛生面が気になるキッチンにおいても、環境への配慮を意識している人の方が多い
- 収集日まで、ゴミの種類を問わずキッチン内で保管している世帯が多い
- キッチンにあるゴミ箱の合計容量は30L以上の大型の世帯が多い
- 対面キッチンやLDKにあるキッチンの方がゴミ箱の合計容量は大きい
- 30代や、使い捨て製品をよく使う世帯でゴミ箱の合計容量は大きい

- キッチンにあるゴミ箱の合計容量から

今回の調査では、キッチンにあるゴミ箱の合計容量と住まいや住む人との関係を分析しました。

分別用のゴミ箱も含め、調理で出るゴミはキッチン内で保管する世帯が多く、ゴミ箱の合計容量は30L以上の世帯が半数を占め、かなりの容積を取っています。

キッチンのタイプや間取りでゴミ箱の容量には差が見られ、周辺の部屋のゴミも受け入れるゴミセンターとしてキッチンが機能している可能性も示唆される結果となりました。

年代別では30代でゴミ箱の合計容量が最大となる結果で、手のかかる小さい子がいる世帯では、加工食品などを活用することでプラスチック系のゴミが多くなってしまっている可能性もあります。



そしてキッチンのゴミに関しては、容量やその保管場所に関する悩みを持っている人も多く、様々な工夫をしながらなんとかゴミの収集日まで乗り切っている様子が調査からは垣間見えました。



- これからのクリナップ

近年、オープンなレイアウトのキッチンが高い人気があります。また共働きの増加などにより、料理は外部化され、料理する頻度が少なくなるような生活スタイルは今後加速していく可能性があります。ゴミ箱のあり方や置き場についてはメーカーとしてのさらなる提案が求められるかもしれません。そしてキッチン自体が常に衛生的な状態が保てるようになれば、もっとゴミの減容化に貢献できる可能性もあります。

他の空間のゴミも集まるキッチンから、ゴミ箱のお悩み解決に貢献できるようなあり方など、キッチンメーカーとして製品やサービスを通して今後も提案をしていきたいと思えます。

おいしい暮らし研究所®は、生活者の食や暮らしに関する情報の
収集、調査・分析を行っているクリナップの研究部門です。
料理を作るキッチンだけではなく、作った料理を“おいしく楽しく
食べられるような空間”作りも意識しながら調査を実施し、継続的に
キッチン白書の充実を図ってまいります。

＜本書に関するお問い合わせ先＞

クリナップ株式会社 広報課 E-mail : inq@cleanup.jp

過去のキッチン白書については… <https://cleanup.jp/oikura/kitchen-hakusyo/>

※本書原稿及び記載データの無断転載を禁じます